

平成20年度事業計画

今年12月1日施行される新公益法人制度を迎えるにあたり、本会の移行すべき選択を決める重要な年度であり、これまで議論を重ねてきた経緯をふまえ本会のあるべき法人化を目指すことを明確にしながら、調査研究では技術委員会において各種トンネル技術の当面する課題や、地下利用技術に関する会員からのニーズに積極的に応えとともに、催物事業においてはこれまで以上に、社会に貢献するトンネルの有益性を広く広報するためのトンネル工事現場見学会や、発表会、講習会等を実施する。また、ホームページの充実や、会誌、図書の頒布を通じてトンネル技術に関する情報を提供することで、会員の資質向上や広く一般への利益増進に寄与することを図るほか、国際関係事業において、ITA加盟国代表として各作業部会に協力し各国との技術交流に努める。

1. 会員拡大

厳しい社会環境のなか、トンネルの技術開発並びに施工実績が広く地域社会に貢献しているかなど、会員から意義のある活動をする協会として期待されるよう努め、新規加入会員を獲得しつつ事業運営基盤の安定を図る。

2. 調査研究事業

技術委員会

各小委員会の全体掌握、今日的な課題や会員のニーズを把握するため情報収集に努め調査研究に反映する。なお、各小委員会の活動計画は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

①前年度に引続き「山岳トンネルのずり出し方式に関する実態調査」のアンケート調査結果を基に分析作業を実施し、ベルトコンベヤによるずり出し方式の採用実態把握、ベルトコンベヤ方式とタイヤ方式との対比検討、ベルトコンベヤの採用時の問題点等を整理し取りまとめる。

②ホームページの資材機械検索リストについて更新作業を実施する。

③共通小委員会としての今日的な課題について検討する。

(2) 山岳工法小委員会

④トンネルの変状と対策に着目した調査検討を実施する。

(3) 都市トンネル小委員会

⑤前年度取りまとめた「シールド工事の施工に関するQ&A」の広報を図る。

⑥都市トンネルにおける調査・計画・設計に関する今日的課題を抽出し検討を実施する。

(4) 安全環境小委員会

⑦トンネル工事の災害事例について調査検討する。

(5) 保守管理小委員会

⑧維持管理のためのデータの電子化・データベース化およびシステム開発の現況について調査・整理する。

3. 催物事業

事業委員会

協会の事業活動に対して会員をはじめ広く一般の理解と関心を高め、その参加協力を求めるとともに、当面する技術課題をふまえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上に努める。

(1) 見学会

国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等各種トンネル工事現場の見学を逐次開催するほか、I T A国際会議に併せてアグラ（インド）国際トンネル技術調査を予定する。

(2) 発表会

第62回施工体験発表会は山岳トンネルについて「課題:周辺環境条件を配慮し、新技術を駆使したトンネル工事」、第63回は都市トンネルについて「課題:都市部の特殊条件下でのトンネル工事」をそれぞれ実施する。

(3) トンネル技術ステップアップ研修会

山岳部門とシールド部門をそれぞれ開催する。

(4) 講演会

最近の話題をあつめて随時、企画実施する。

(5) モグラ研究会

既存のわくにとらわれないでトンネルに関する自主的な技術の向上を期待するとともに、トンネル技術者のステップアップを目指す懇談会であり随時実施する。

4. 国際関係事業

国際委員会

(1) I T Aとの良好な関係の維持（I T Aへの支援）に努める。

(2) トンネル技術に関する海外の雑誌の記事を抽出、翻訳して会誌に紹介する。また、

Tunnelling Activities in Japan 2008を編纂する。

5. 運営・広報事業

総務委員会

(1) 事業運営上の重要事項について検討する。

- ・ 本年12月1日施行される新たな公益法人等の制度改革に向けた新法人への移行にとるべき方策を検討する。

(2) 協会の広報活動に努める。

- ・ ホームページおよび会誌「トンネルと地下」等による、広報活動の充実化。
- ・ 各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るための広報活動。